

研究要旨

放射線治療医とIVR医に共通する代表的緩和治療について、両者の認識を調査し、「症状緩和目的で放射線科に紹介される患者を適切な治療に誘導するための放射線治療医とIVR医の有機的な連携に必要な条件」を明らかにするためのアンケート調査を準備した。

A. 研究目的

「症状緩和目的で放射線科に紹介される患者を適切な治療に誘導するための放射線治療医とIVR医の有機的な連携に必要な条件」を明らかにする。

B. 研究方法

日本腫瘍放射線学会所属の放射線治療専門医、日本IVR学会所属のIVR専門医を対象に、放射線治療医とIVR医に共通する代表的緩和治療について、両者の認識をアンケート調査し、その結果より両者の認識の共通点、相違点を抽出し、「症状緩和目的で放射線科に紹介される患者を適切な治療に誘導するための放射線治療医とIVR医の有機的な連携に必要な条件」を明らかにする。

アンケート項目は、経験年数、施設の対象領域、規模、所属部署における立場に加え、薬事承認、保険収載されている悪性大静脈症候群に対するステント治療、「有痛性骨転移に対する経皮的骨形成術（PVP）」、薬事承認、保険収載上可能であるがエビデンスが十分でない「動脈塞栓療法」、薬事承認、保険収載が予定されているが現時点で実施できない

「経皮的ラジオ波焼灼療法」の4病態に対する、放射線治療、IVR治療に対する認識、経験、両者の連携に対する現状、姿勢などを訪ねるもので、総質問数52。アンケート集計はインターネットを使用し、解析は研究分担者が行う。

E. 結論

本年度はアンケート内容の作成を行い、研究班における指摘など受けつつ改訂を重ね第7版を最終型とし、日本放射線腫瘍学会、日本IVR学会に提出し、承認を待っており、承認された段階で調査を開始する。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表

- (1) Arai Y. Interventional Radiology for whom. Cardiovasc Intervent Radiol. 2021;44(4):633-634.
- (2) Arai Y. A new window connecting medical oncologists and interventional

oncologists. Jpn J Clin Oncol. 2021;51(7):1023.

- (3) Arai Y. Clinical trials of interventional oncology. Int J Clin Oncol. 2012;17(4):301-5.

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし